2023年度第2回執行理事会議事録

日程：2023年8月5日（土）13:00-16:30【WEB会議】

出席： 岡田　誠，杉田律子，星　博幸，中澤　努，緒方信一，内尾優子，尾上哲治，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮　剛，坂口有人，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，山口飛鳥

監事：岩部良子

欠席：内野隆之，矢部　淳，（監事）山本正司

事務局　澤木

＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事16名の出席

＊前回23-01議事録案は，本執行理事会にて承認された．

報告事項

１．全体的報告

特になし．

2．運営財政部会（亀高・加藤）

1）　総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞

・ 地学オリンピック日本委員会から，オンラインシンポジウム：地学オリンピックと学校教育のこれから（8/6開催）への後援依頼があり，承諾した．
・ 東レ科学振興会の役員交代の連絡．退任：専務理事 紙野憲三氏，就任：専務理事 辺見昌弘氏．
・ 無機マテリアル学会新役員の連絡．会長：小島芳行氏（日本大），副会長：大倉利典（工学院大）
・ 石油資源開発株式会社役員の交代連絡．新任：取締役 手塚和彦氏

＜会員＞

１．今月の入会者(25名)

・　ジュニア会員（2名）牧野航大，池端友梨
・　正会員（23名）
  - 一般会員（3名）渡邊牧朗，WANG Wenjing，塩井宏幸
  - 学生会員（20名⇒単年度7，2年パック9，3年パック4）淺野　凱，伊藤陽介，猪股雅美，岡﨑正次，小笠原光基，一井直宏，金指由維，隅田　匠，TAMPAH Marshel E.，平岡　空，福田倫太郎，藤島誠也，藤原秀平，前原誠也，松﨑　茜，三上航大，三堀遼太，三村匠海，宮副真夢，八塚伸明

２．今月の退会者なし

３．今月の逝去者（1名）

・　名誉会員（1名）鎮西清高（逝去日：2023年7月27日）

４．2023年7末会員数

賛助：27，名誉：39，ジュニア会員：1，正会員：3177［うち一般2152，シニア848，学生177］合計3243（昨年比-55）

＜会計＞

・　特になし

＜その他＞

・　定款・規則類の整理について（加藤）（→審議事項へ）

・　オンライン選挙システム（亀高）：テスト操作及び画面最終調整中．立候補者参照のボタンは，選挙公示される迄は一般会員には見ることができないように，改善する．執行理事会内で８月５日よりテストランを行い，不具合等を確認することとする．

3．広報部会（内尾・松田）

1）広報委員会（内尾）

・　HP 及び SNS（Instagram）について検討作業中である．SNS（Instagram）は，学術大会時に運用できることが望ましいので，できるだけ進めて行きたい．HP は業者に見積相談中，また，SNS（Instagram）は，現在設定は完了しており，投稿についての運用を検討中．作業上必要なことについて広報委員会広報部会内で分担する等，進めて行く．

４．学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1）行事委員会（高嶋・山口）

・　2023 京都大会準備状況（高嶋）

巡検案内書の状況：受理：5 件，著者修正対応中：3 件，原稿未提出：1 件．未提出の 1 件以外は大会開催までに受理 or 公開予定．

(1) 講演申込 526 件（口頭 271，ポスター255　※ジュニアセッションを含む）．講演プログラムの編成，要旨校閲終了．プレスリリースおよびセッションハイライト推薦を世話人に依頼中．

(2) 反省会を 9 月 28 日 16 時半から zoom で実施する。

・　ショートコース第８回（7 月 2 日）開催報告（山口）

同位体による地質学研究をテーマに２編開催した．　20 代 30 代の参加が多かった．次回は 10 月 22 日に応力解析をテーマとしている．

2）専門部会連絡委員会（尾上）

特になし．

3）国際交流委員会（辻森・岡田）

・　IGC2024 の 2nd circular が 6 月末に公開され，それに関わる会員に対する会長メッセージを 7 月 24 日に学会 HP 上で会員向けに公開した．

4）地質標準化委員会（内野）

・　次期 JIS A 0204，0205 改訂作業に向け，7/31 に作業部会（地質調査総合センター地質標準検討委員会）が開催され，問題点のピックアップと議論が行われた．辻森理事からも鉱物・岩石関連でご意見を頂いた．各分野・学会の有識者から組織される「原案作成委員会」の体制作りは現在進行中．

・　地質年代表（日本語版）が再アップデートされた．

５．編集出版部会（狩野・小宮）

1）地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2023 年 8 月 4 日現在）

・ 2023 年投稿論文：41（昨年比-6）［内訳］論説 16（和文 16），ノート 3（和文 3），レター5（和文 5），報告 6（和文 4，英文 2），フォト 2（和文 2），討論 1（和文 1），巡検案内書 8
査読中：31，受理済み：4

・ 129 巻：公開済み 29（388 ページ），入稿・校正中 8

・ 雑誌のレイアウト変更について：日本語要旨を論文冒頭（abstract の後）にレイアウト案を確認し，このレイアウト案を承認した．文献欄のフォントサイズ変更と合わせて編集委員会で確認後，入稿原稿から速やかに適用する．

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

19 編発刊済み．2023 年の投稿数は 36 編で例年並み．

3) 企画出版委員会（松田）

特になし

６．社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）

・ 2023 京都大会ジュニアセッション 16 校 25 件の講演申込があった．講演数は過去大会よりも増加した．

2) 地質技術者教育委員会（坂口）

・ 学生のための地質系業界説明会：

➢ 47 社（対面 32 社，オンライン 35 社，両方 21）が申し込み．非賛助会員が 26 社，賛助会員が 21 社（うち 3 社が新規入会）．大学からの後援が 12 校．

➢ 昨年度よりも対面で 8 社増加し，会場ブースの確保が今回も苦労したことから，来年度以降の更なる企業の参加増加を想定して検討する必要がある．説明会に来場する学生をより増やすために，より来場しやすい環境を整える．高校生が来訪できるシステムも必要．今後は高校に出向いて，地球科学の社会分野活躍についての説明をするなど，将来の芽を育てる活動を検討する．

➢ 企業への参加案内については，開催地の企業の参加も近年増加しているので，地域の企業への案内も進める．

・ JABEE 広報：例年通り高校向けの JABEE 広報ポスターの配布を実施する．出資大学と調整する．今年で 3 年目となり順調に推移している．

・ 地質系若手のためのキャリアビジョン誌：例年通り年度末発行を目指して準備を進める．

・ 第 4 回 JABEE シンポジウム：例年通り年度末にシンポジウム開催の準備を進める．

3) 生涯教育委員会（矢部）

特になし．

4) 地震火山地質こどもサマースクール（星）

・ 本年の「地震火山地質こどもサマースクール in 平塚」は 8/17，18 の 2 日間開催予定．運営委員会が鋭意準備中．松田理事が運営委員として出席する予定．

5) 地質の日（矢部）

特になし．

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1)　利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし.

2)　若手育成事業検討 WG（内野）

特になし.

3)　表彰制度検討 WG（中澤）

特になし.

8. 理事会の下に設置される委員会

1)　ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし.

2)　地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし.

3)　支部長連絡会議（杉田）

特になし.

4)　地質災害委員会（松田）

・　関東支部と共催の関東地震 100 年関連行事である講演会「関東地震から 100 年」のお知らせが 7 月 31 日付けでホームページに掲載された．受付は 9 月 1 日から開始．学会からも松田理事が挨拶を予定.

5)　名誉会員推薦委員会（星）

特になし.

6)　各賞選考委員会（中澤）

特になし.

7)　ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

特になし.

8)　連携事業委員会（中澤）

特になし.

9)　法務委員会（中澤）

特になし.

10)　若手活動運営委員会

特になし.

9. 研究委員会

1)　南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）

特になし.

2)　法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし.

１０．　その他

１）巡検案内書ワーキンググループ（杉田）

8 月 17 日会合開催予定．案内書が期限内に投稿・受理されるために，巡検案内者（案内書執筆者）の選定・依頼には，LOC は事前に行事委員会とも確認，相談することが望ましいのではないか．

審議事項

2.　2023 京都大会の巡検コースについて（高嶋）

一部のコースはいまだに案内書原稿の投稿に至っていない．未登校のコースについては，実施当日は案内者手製の案内書を配布していただき，催行の有無に関わらず，原稿は 2023 年中に投稿していただくことで LOC，案内者に確認した．また，学術大会巡検コースの申込状況の開示は，来年度からは詳細人数ではなく状況のみ（定員締切．まもなく締切…等）開示する．

3.　今後の学術大会関連のプレスリリースについて（高嶋）

現在，学術大会講演に関するプレスリリースは，各セッション世話人が該当する講演を推薦し，行事委員会の審議を経て，広報委員会が主導して行っているが，学術大会開催時期とタイミングが合うプレスリリースは限られてくるため，今後のプレスリリースは地質情報展・市民講演会等の普及行事の情報を中心とし，講演についてはハイライトや開催地域の話題等タイトルのみリストにしてプレスリリースに含めることが提案された．広報委員会と行事委員会でたたき台を作成して，議論を進める．

4.　地質技術者教育委員会の任期（坂口）

学会の委員会組織の整理が行われた際に，本委員会は先行して委員の任期確認と改選が行われたため，他委員会と改選時期が 1 年ずれた状態が続いている．他委員会と改選時期を整合させ，足並みを揃えたい．そのため，任期終了時（2023 年 6 月総会）まで遡り，今年度 1 年間を再任（任期：～2024 年度総会まで）することとして，理事会に上程する．

5.　若手人材動向調査（坂口）

地質技術者教育委員会より，これまでは大学に所属する会員個人を通じて標記調査が行われてきたが，組織間調査として学会から学科長等宛に依頼するのが望ましいと考えるため，会長及び委員長名で学科長等に依頼したい旨の要望があった．議論の結果，組織間調査よりも個人宛のほうが情報収集の精度が良いと考えられるため，文面の宛先は学科長宛とするが，実際のやりとりは，従来通り所属会員に向けて依頼する形が望ましい．なお，若手人材動向調査は，地質系の若者の動向を知る上での基礎データなので，継続して調査する方針が改めて確認された．

6.　総務委員会規則（案）の承認（加藤）

総務委員会規則（案）が上程された．細部について詰めたのち次回理事会へ上程する．この規則内容・文書形式が今後の委員会規則の検討の基礎資料となると考えられる．

7.　ジュニアセッションの優秀賞・奨励賞の選考について

表彰制度検討 WG より，これまでジュニアセッションの優秀賞・奨励賞の選考基準が，明瞭に規定されていなかったことについて，フィールドワークの有無に関係なく得点順に優秀賞（上位 20%），奨励賞（優秀賞を除く上位 25%）を目安に授与することが確認された．

8.　各賞候補者募集要領への被推薦者の倫理観に関する留意事項加筆について

表彰制度検討 WG より，推薦者に対していわゆるコンプライアンス違反が無いことを確認する一文を募集要

領に加筆したい旨の説明があった．規則のように厳密化すると運用が難しくなるので，学会の倫理綱領・行動規範やその他の法令及び社会通念上一般的な文言にとどめて加筆することとする．

9.　ニュース誌の送本冊子の選択制について

ニュース誌の「送本不要」を選択した会員に対しては，ジオルジュの送本（年 2 回）も停止される．現在のシステム上，ニュース誌とジオルジュそれぞれの送本希望を確認し，発送を区別することは難しい．「送本希望」は，毎月 15 日頃まで会員情報画面上で，送本の「要・不要」を会員各自で選択してもらう．ニュース誌送本は不要だが，ジオルジュを受け取りたい場合は，ジオルジュ送本月（5 月，11 月）に合わせて，画面操作を行ってもらう．

監事コメント

（岩部監事）

今回は特に，巡検案内書，ジュニアセッション，学会大会に関する内容が多く議論された．今大会にすぐに反映されなくても，学術大会をより良くしていくための議論であったと評価する．今後も中長期的な視点も含めて議論を進められたい．

以上

2023 年9 月9日

一般社団法人日本地質学会

会長（代表理事）岡田　誠

署名人　執行理事　中澤　努